



# すみれ通信 3月号



すみれ通信は、医療・介護に携わる方に  
発信しています

(第129号)

## 令和7年度多職種研修会 報告



開催日：2026年1月22日(木) 19:00~20:30

テーマ：「在宅で療養されている高齢者の  
急変時の対応について考える」

講師：藤沢市消防局 救急救命課

鈴木 真也氏 門口 清高氏

講演内容：藤沢市の救急車の出動件数と高齢者搬送の  
特徴、救急隊が感じている課題等

参加者：81名 スタッフ 10名 計 91名

【救急救命課の説明の概要】

救急隊の役割とは・・・

傷病者の評価、応急処置を行い

適切な医療機関へ搬送すること



救急出動件数および搬送人員は、年々増加を続け過去最多を更新している。救急需要増加の要因として高齢者人口が関わっており、将来的な高齢者人口増加に伴い救急件数も増加し続ける見込み。

件数の増加は到着時間の遅れに繋がり、救える命を救うことが困難になる事が課題となる。消防局では「救急体制の強化」と「救急需要の抑制」の両側面から「包括的な救急需要対策」を行い、救急体制を維持していこうとしている。

【グループワークでは・・・】

参加者の皆さんからは、「いつもと違う」「このままだと生活できない」「家族の不安が強い」「本人または家族が救急車を強く希望」「判断して欲しい医師や看護師に連絡がつかない」「責任が取れない」等で、「医療的に緊急性が低いが生生活課題として緊急性が高いケース」の場合にも搬送依頼している現状が見えてきました。



【次年度に向けて】

研修会では多くの課題が出されました。そのなかから、

- ① 搬送先病院に情報が引き継がれないことがある  
＝ 適切な医療につながらない
- ② 在宅医療・介護に関わる多職種の中で、まだまだ ACP・AD・DNAR 等の理解に差がある。

以上の2つの課題を中心に、今後の多職種研修会で取り上げていきたいと考えています。



在宅医療の現場から

スギ訪問看護ステーション善行

佐藤 佳祐



スギ訪問看護ステーション善行の管理者佐藤です。私は青森県出身で、親が共働きだったため、いわゆるお祖母ちゃんっ子で育ちました。高校生の時に、祖母はパーキンソン病を患い、日増しにADLが下がり、ご飯も食べられなくなり、薬の副作用で悪夢を見るのか、夜中に叫び声をあげるようになりました。母が介護している横で自分の無力さを感じ、看護師を目指そうと決意しました。



看護学校は横浜にしました。青森県人の私からすると横浜は憧れの地だったからです。

学生時代は毎日楽しかった反面、勉強には苦労しましたが、なんとか国家試験に合格することができ、看護師になりました。誰よりも看護師に憧れていたもので、就職した急性期病院でも楽しく過ごしました。呼吸器内科・外科、循環器科、整形外科等を経験する中で、病院とは違い設備が整っていないご自宅で療養し、亡くなる方は、どのような最期を送っているだろうと思ったこと、そして、もっと寄り添った看護をしたいと思ったことが訪問看護師になった理由です。訪問看護師になって10数年経ち多くの経験をしてきましたが、今改めて、医師、ケアマネジャー、ヘルパー、薬剤師、MSW等、多職種との連携が充実することによって、よりその人らしい最期を迎えることができるのだと実感しております。日々の連携に心より感謝いたします。

現在私は、藤沢市の訪問看護ステーションの連絡協議会の会長を務めています。現在協議会には47訪問看護ステーションが参加しており、3か月ごとに集まり活発な意見交換をしています。昨今は、ACPの普及が課題となっており、訪問看護師としてどのように推し進めていくのか、またどのように多職種と共有していくのかについても検討していきたいと考えています。また、これからは病院や施設等で働く看護師との連携も強めていくことも重要なことだと考えています。一人の訪問看護師として、そして訪問看護ステーション連絡協議会の会長として、一步一步前進していきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。